

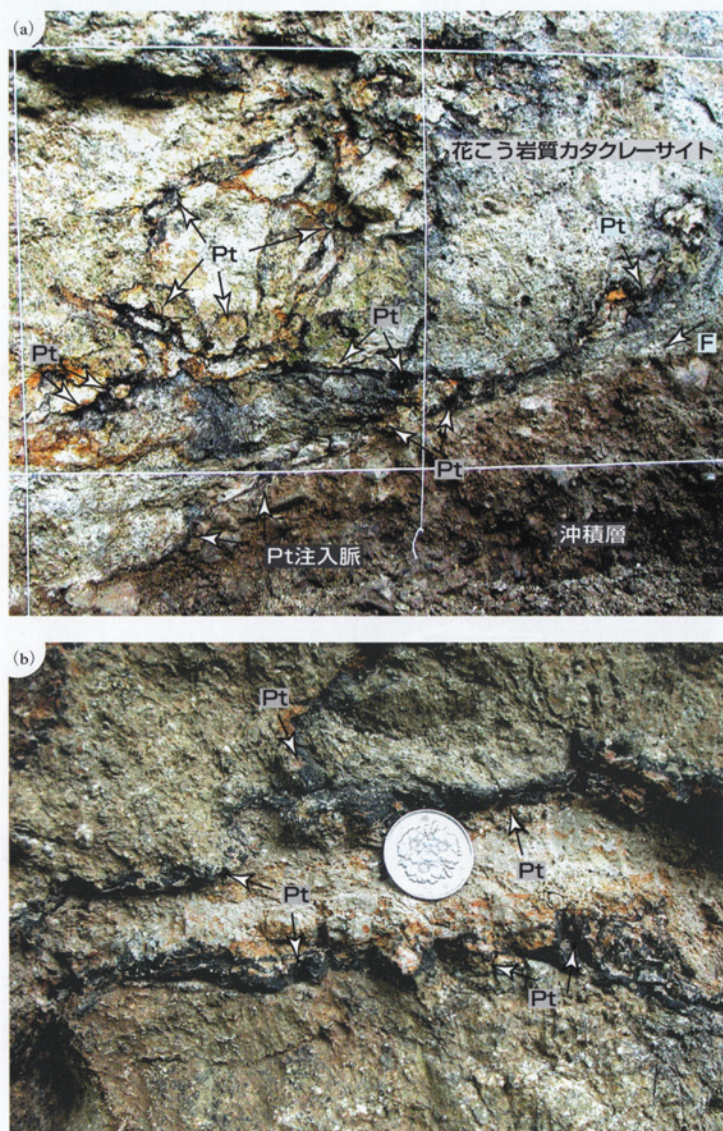


図10.2 日本の糸魚川ー静岡構造線活断層帯の戸沢地点において上盤の花こう岩質カタクレーサイトに産出するネットワーク状のシュードタキライト脈(Pt)

- (a) 複雑なネットワーク状脈。大きい矢印は花こう岩質岩石が沖積層堆積物の上に衝上した断層面(F)を示す。
 (b) 注入脈の拡大写真。写真(a)の白いグリッド線の間隔は50cmである。

積堆積物中の注入脈が貫入している産状から、最近の地震活動時の断層運動によって形成された割れ目に注入したものであることが示唆される。

シュードタキライトの露頭の近くで行われた糸魚川ー静岡構造線活断層帯を横切るトレンチ調査の結果、最新の断層運動イベント時期は $1550 \pm 70 \sim 2350 \pm 60$ 年前の間であり、主断層面沿いの変位は1ー1.2mであることが明らかになった (Toda et al. 2000 ; Tachikawa 2002)。注入脈の構造様式と沖積堆積物の炭素年代測定から、少なくとも一部のシュードタキライト脈が1500ー2500年前の最新の地震断層活動により、10mより浅い深度で形成されたと推測される (Kano et al. 2004)。



図10.3 日本の飯田ー松川断層帯中の断層花こう岩質カタクレーサイトに産出するシュードタキライト注入脈(Pt)の写真

注入脈は断層沿いにオフセットされている。
 (Lin 1996より引用, ©2007, Elsevier Science社の許可)